

グラフでみる加工食品の 生産・販売、外食等の指標



目 次

< グラフでみる生産販売統計 >

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

< 今月のトピック >

- ・食料品物価の動向



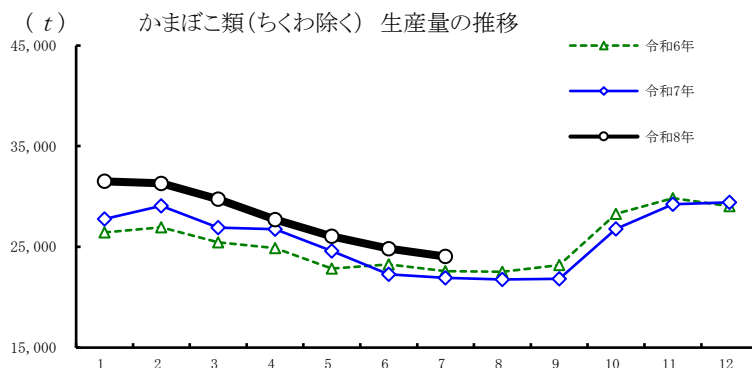
1. 加工食品の生産動向

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。<https://www.fmrir.or.jp/stat/index.html>
ここでは、加工食品の主な品目別の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。
なお、詳細は、「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

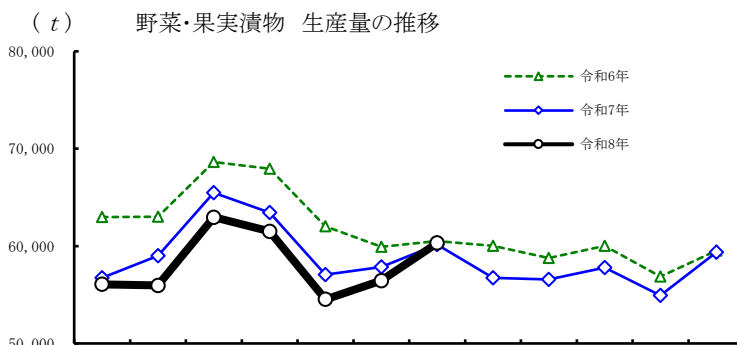
7月 9.7% 増加



○ 野菜・果実漬物

生産量 対前年同月比

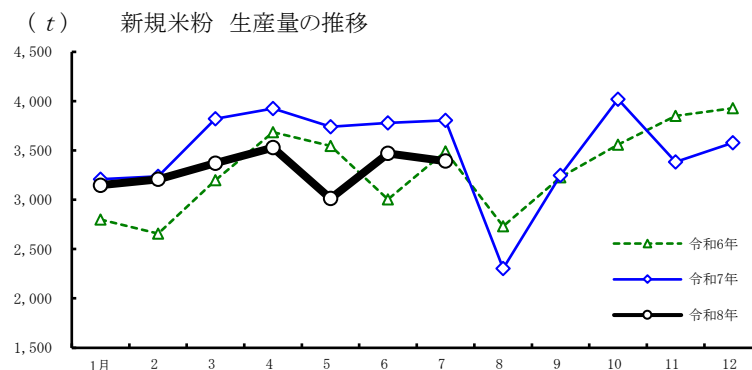
7月 0.2% 前年並み



○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

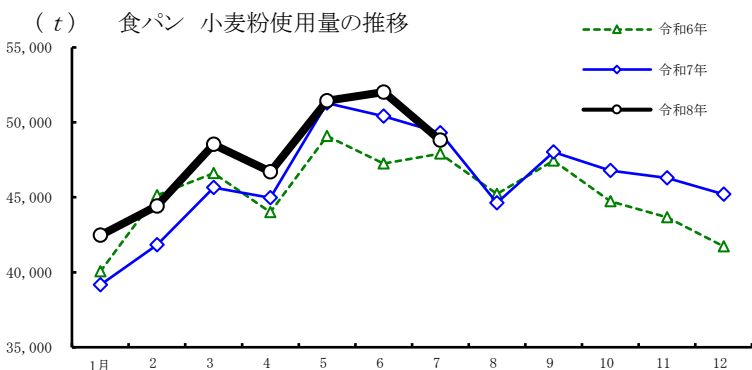
7月 12.4% 減少



○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

7月 1.0% 減少

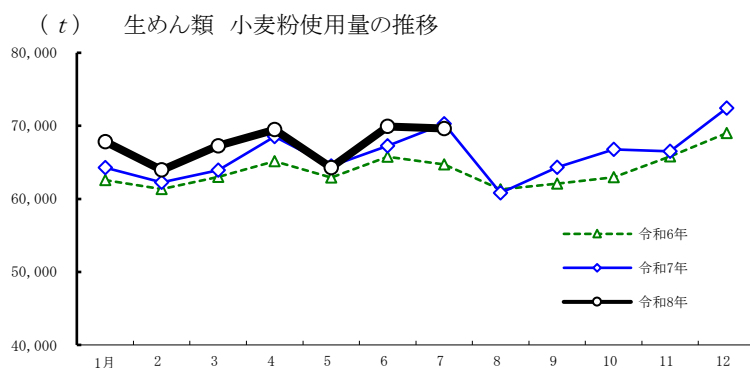


1. 加工食品の生産動向

○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

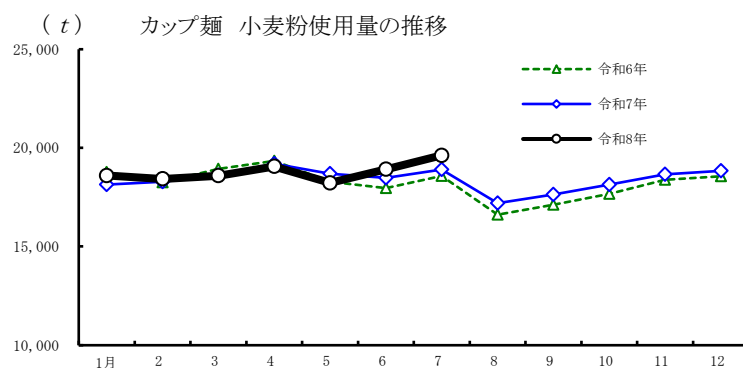
7月 0.9% 前年並み



○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

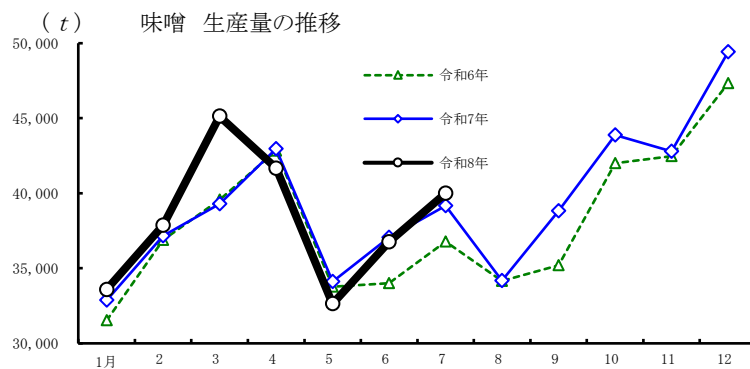
7月 3.8% 増加



○ 味噌

生産量 対前年同月比

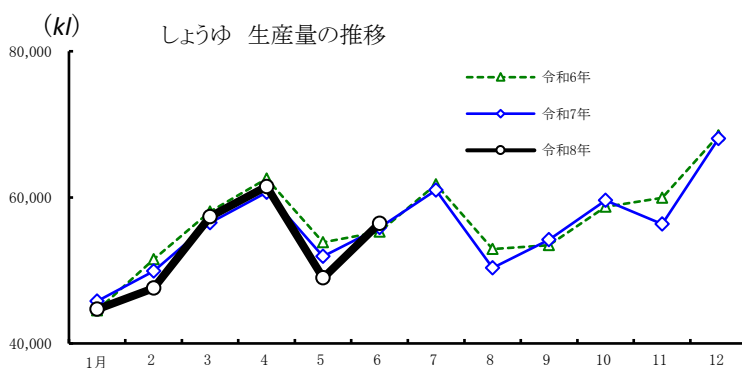
7月 2.1% 増加



○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

6月 1.0% 増加

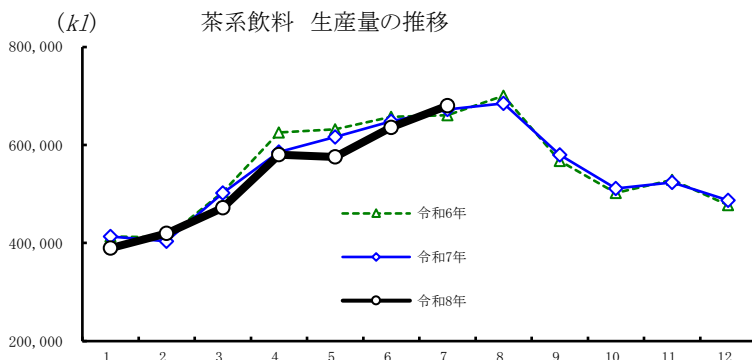


1. 加工食品の生産動向

○ 茶系飲料

生産量 対前年同月比

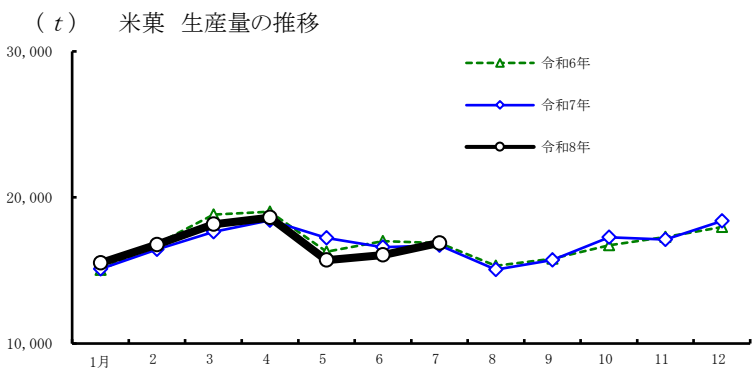
7月 1.1% 増加



○ 米菓

生産量 対前年同月比

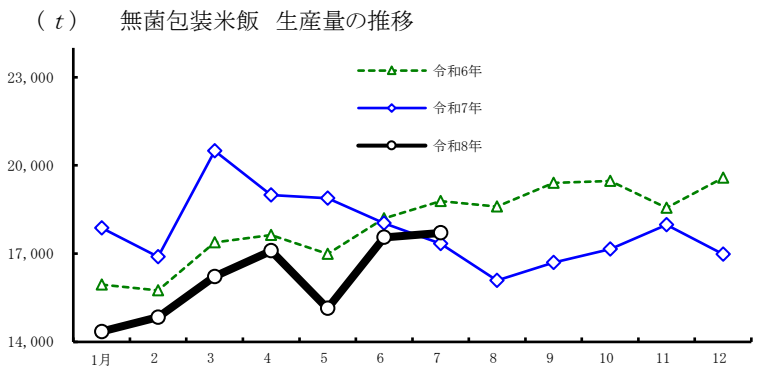
7月 0.9% 前年並み



○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

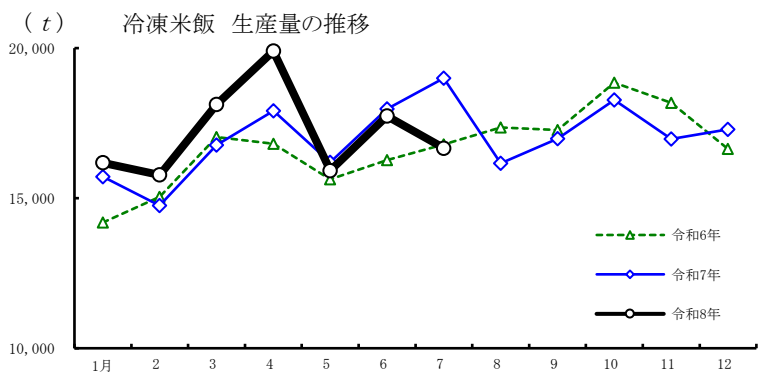
7月 2.1% 増加



○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

7月 12.3% 減少



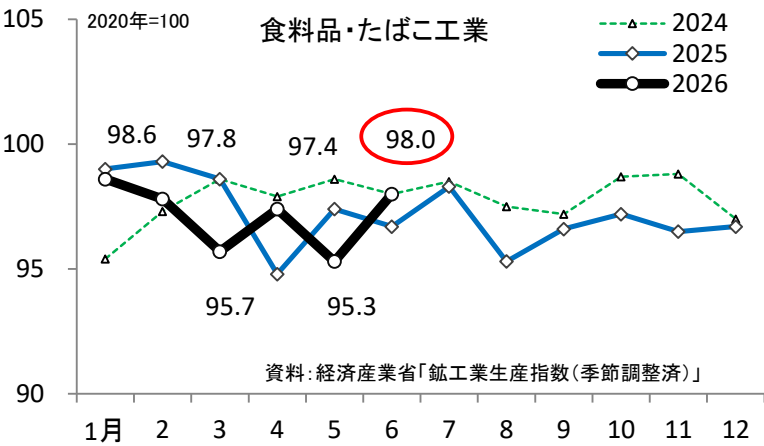
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

6月 1.3% 上昇

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



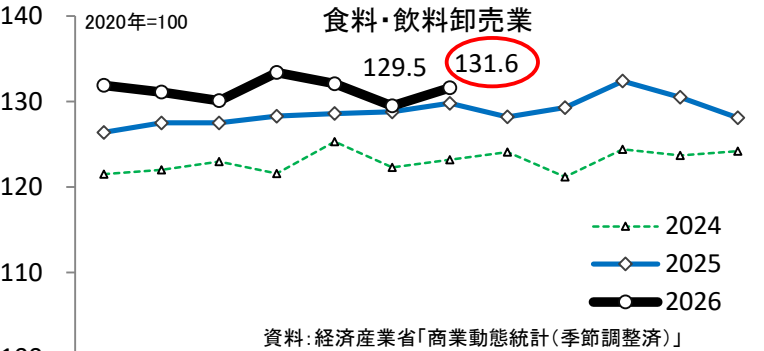
2. 食品卸売業・食品小売業

○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

7月 1.4% 増加

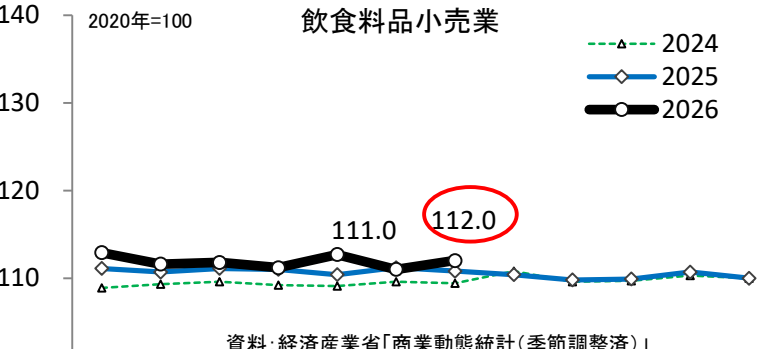
経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別（スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高（月次速報）について、みることができます。



○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

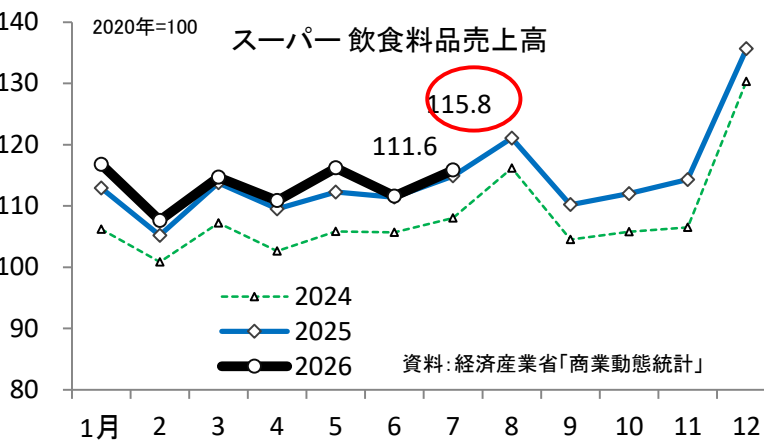
7月 1.1% 増加



○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

7月 0.8% 前年並み

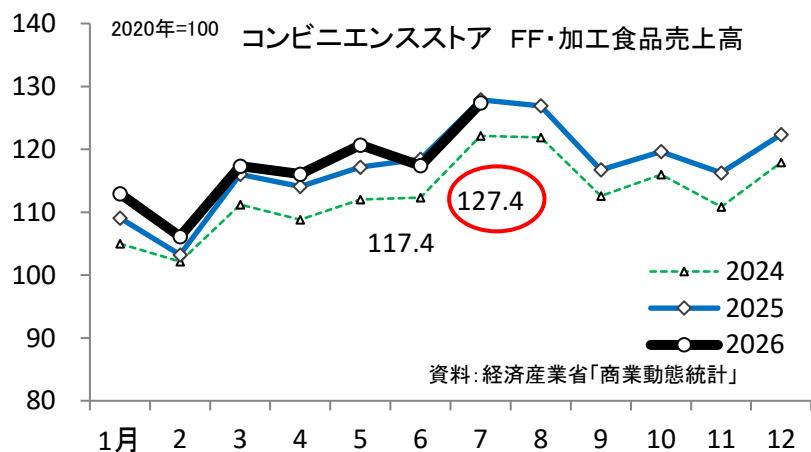


2. 食品卸売業・食品小売業

○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比

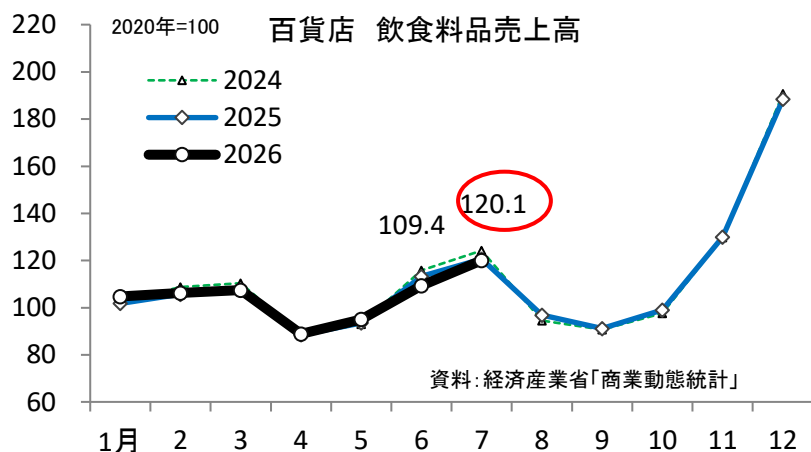
7月 0.4% 前年並み



○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比

7月 0.5% 前年並み



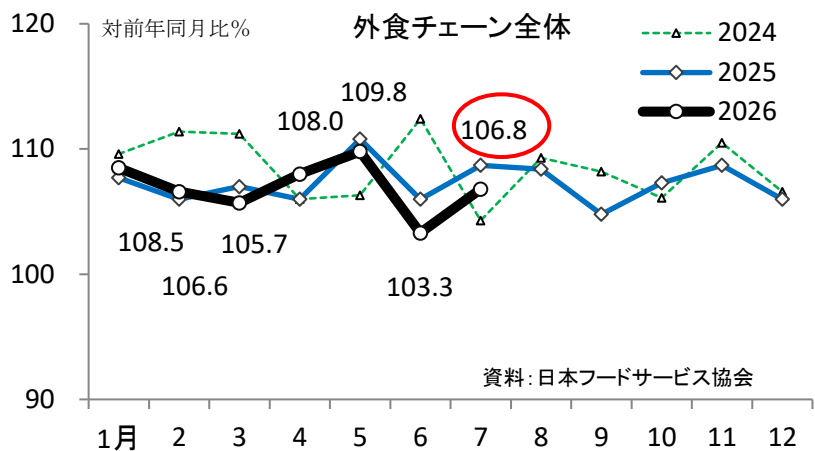
3. 外食産業

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食全体

全店売上高 対前年同月比

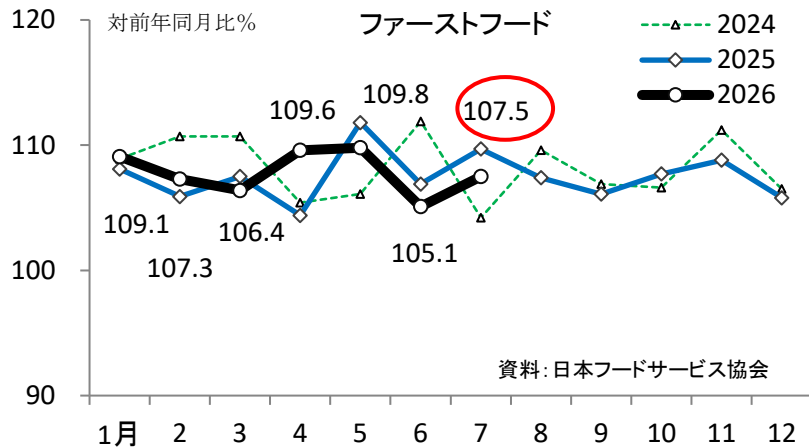
7月 6.8% 増加



3. 外食産業

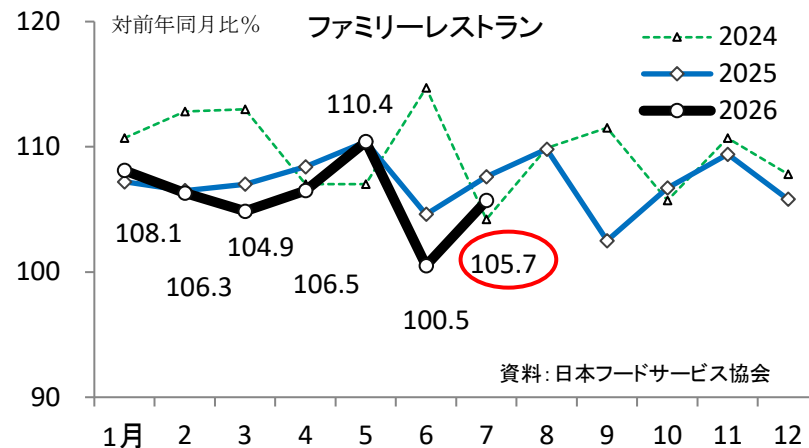
○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比
7月 7.5% 増加



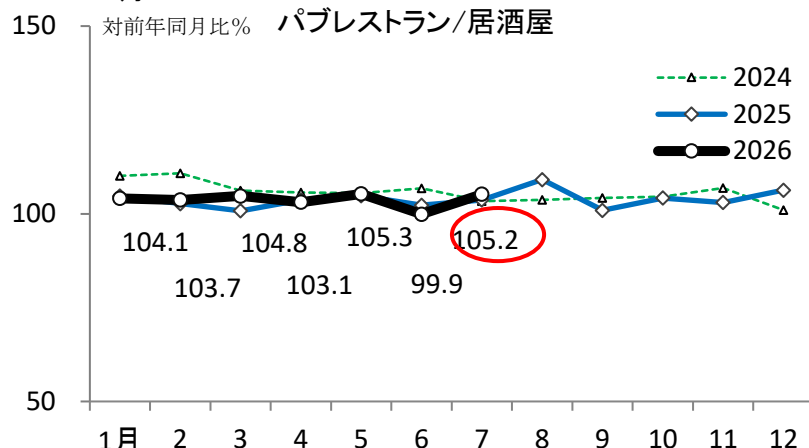
○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比
7月 5.7% 増加



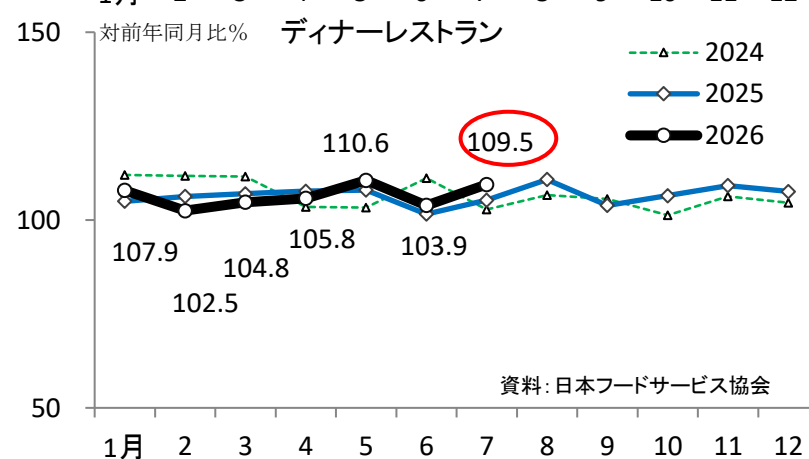
○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比
7月 5.2% 増加



○ ディナーレストラン

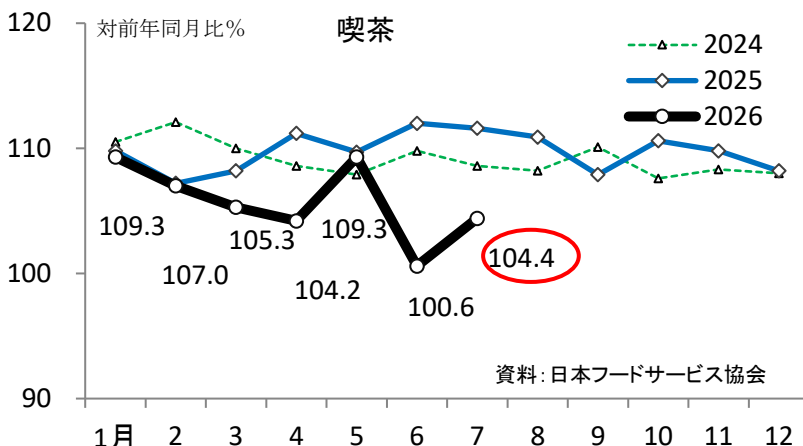
全店売上高 対前年同月比
7月 9.5% 増加



3. 外食産業

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比
7月 4.4% 増加



4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

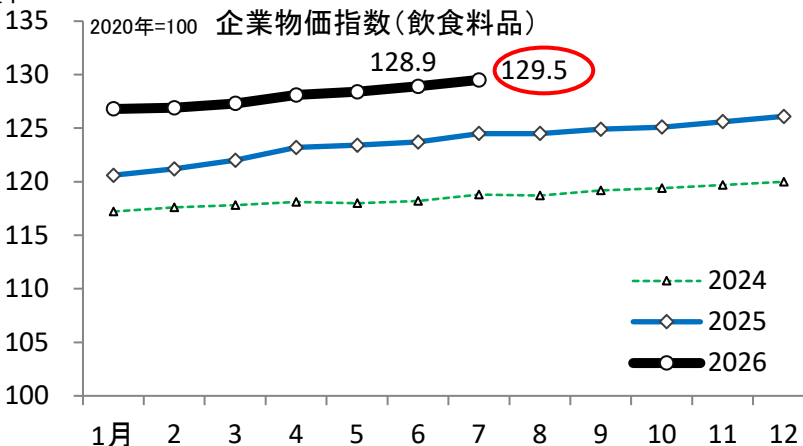
企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として、指数化したもの。

このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 企業物価指数 （飲食料品）

飲食料品 対前年同月比
7月 4.0% 上昇



○ 消費者物価指数

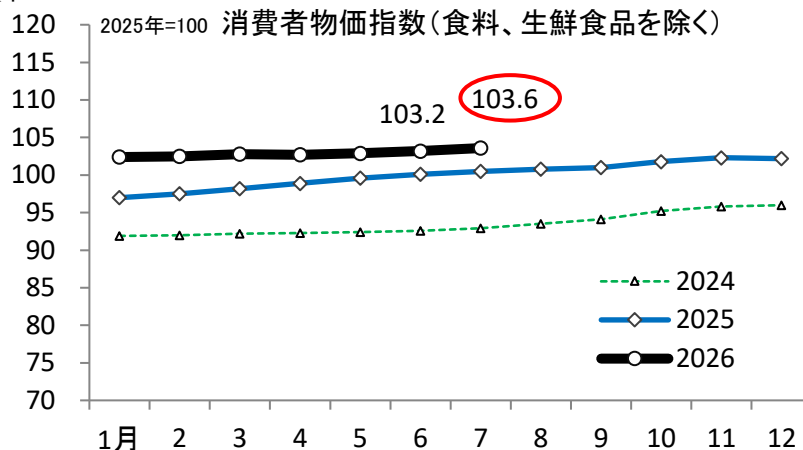
消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

○ 消費者物価指数 （食料（生鮮食品除く））

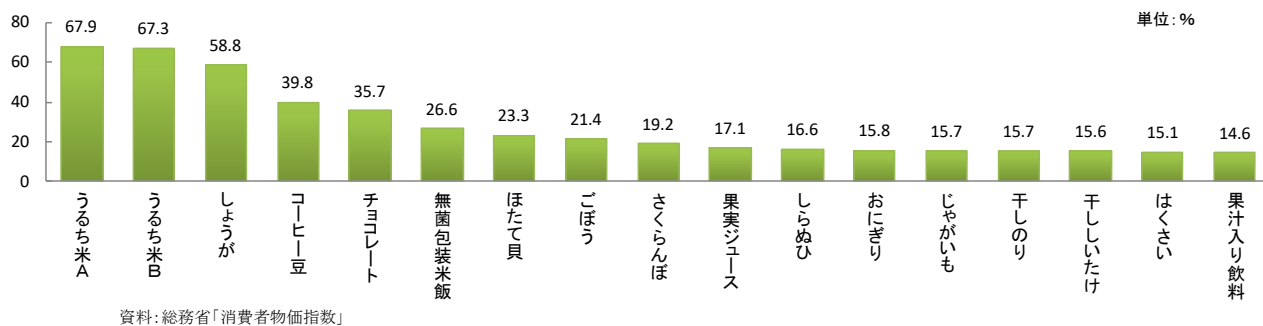
食料 対前年同月比
7月 3.1% 上昇



令和7年の食料品の消費者物価の上昇品目について、うるち米の対前年上昇率が67%と大幅増加

令和7年において、消費者物価が上昇した主な食料は、うるち米A、うるち米B、しょうが、コーヒー豆、チョコレート、無菌包装米飯、ほたて貝、ごぼう、さくらんぼ、果実ジュース、しらぬひ、おにぎり、じゃがいも、干しのみ、干しいたけ、はくさい、果汁入り飲料等となっている。

図1 消費者物価の主な上昇品目（対前年上昇率）

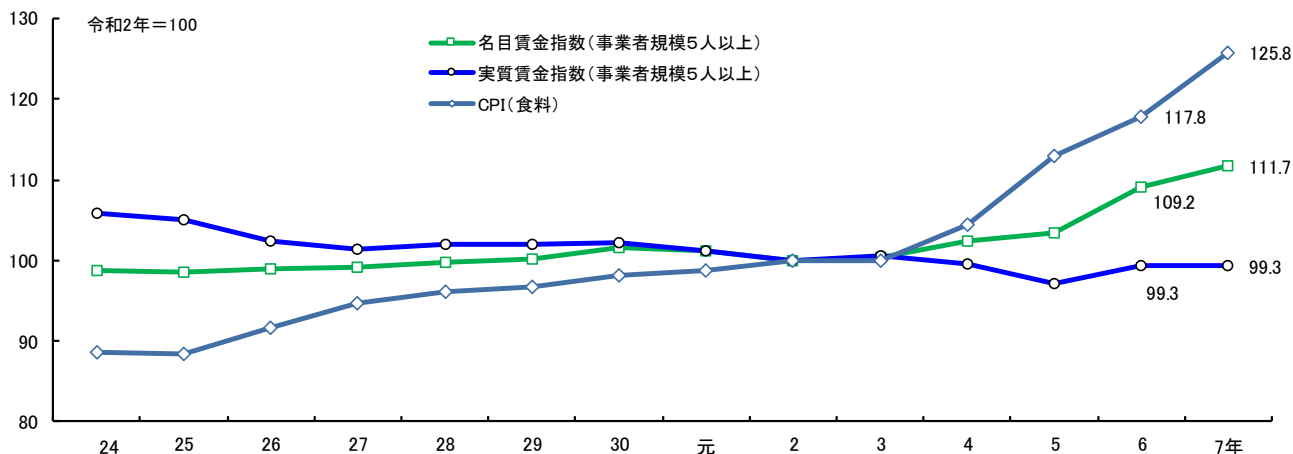


令和7年の名目賃金はわずかに上昇

令和7年の食料の消費者物価指数が対前年比6.8%とかなりの程度上昇した一方、名目賃金指数は対前年比2.3%とわずかな上昇となった。

物価の変動の影響を除いた実質賃金指数は同0.0%と前年並みとなり、物価に対して賃金の上昇が遅れていることから、消費者の購買力低迷が懸念される。

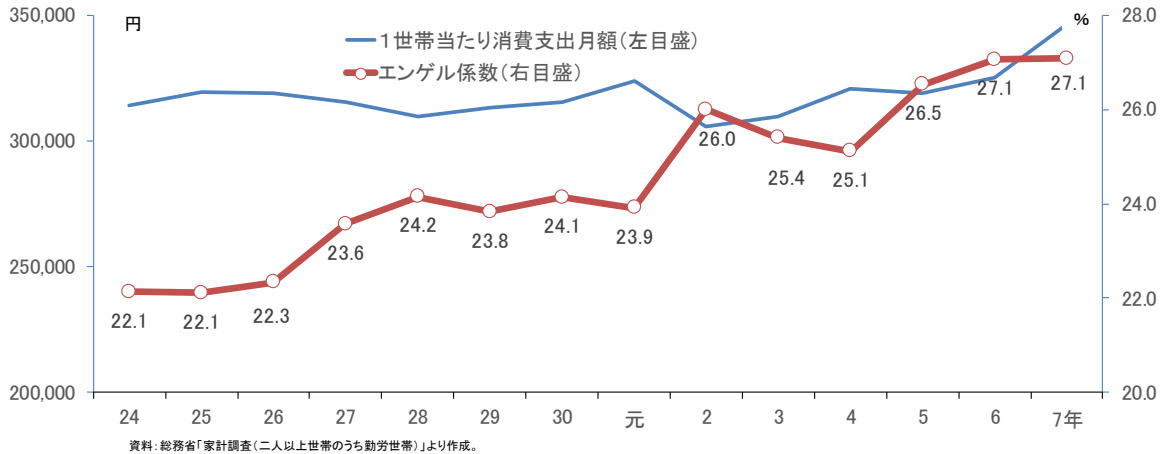
図2 食料の消費者物価指数及び賃金指数の推移



令和7年の勤労者世帯の食料支出額は対前年比6.5%増加、エンゲル係数は27.1%で前年並み

勤労者世帯における令和7年の月平均消費支出額は、34万6千円で対前年比6.5%とかなりの程度の増加となった。このうち、食料支出額は9万4千円で対前年比6.6%と消費支出額と同程度の伸びとなった。この結果、令和7年の勤労者世帯におけるエンゲル係数は27.1%で、前年並みとなっている。エンゲル係数は近年、上昇傾向で推移しており、特に令和4年対比では2.0ポイント高く、食料の消費者物価上昇が要因とみられる。

図3 勤労者世帯におけるエンゲル係数の推移



令和7年の1世帯当たり食料支出額構成比は、対前年比で生鮮品及び外食が上昇し、加工食品、調理食品及び酒類は低下

令和7年の1世帯・1カ月当たり食料支出額の構成比は、生鮮品（穀類含む）が29.0%、加工食品が29.1%、調理食品が14.3%、飲料が6.2%、酒類が4.2%、外食が17.5%であった。対前年比で生鮮品（穀類含む）が前年を上回るのは平成26年以来である。外食も近年、対前年比が上昇で推移している。一方、加工食品はコロナ禍において巣ごもり需要が増加したと思われるが、ここ数年は対前年比が年々低下傾向で推移している。が要因とみられる。

図4 家計消費における食料品・外食支出額構成比の推移

